

～自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望にむかう子ども～

- 自ら学ぶ子ども
- こころ豊かな子ども
- たくましい子ども

玉っ子

NO14 R4.11.12

文責 校長 佐藤則之

校長あいさつ

本日はお忙しい中、「玉っ子学習発表会」にお越しいただきありがとうございました。コロナ禍であるため、感染防止の観点から各学年ごと分散による発表となることにご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

発表会にあたり校長が皆様に直接挨拶すべきところですが、紙面にて失礼致します。

本来であれば、多くの来賓の皆様をご招待し、体育館一杯の保護者や地域の皆様の前で披露する、年に一度の機会ではありますが、コロナ禍故に子どもたちの安全・安心を最優先とし、発表の仕方を変えざるを得ないのがここ3年間の現状です。しかし、この3年間の間に、新型コロナウイルスに関し分かってきたことも多くなってきました。換気を十分に保つこと、手洗いや手指消毒を徹底すること、マスクを適切に着用すること等、子どもたち自身も意識し、気をつけるようにしています。多くの制約がある中での教育活動を余儀なくされておりますが、子どもたちは感染防止対策を意識しながら日々の学習を積み重ねています。また、友達との関わりから多くのことを学び社会性を育てています。

お手元のプログラムに各学年の発表内容を紹介しております。ご覧の通り各教科や総合的な学習での学びを生かした発表となります。昔、学習発表会ではなく「学芸会」という名の発表会がありました。当時小学生だった私の記憶では、学年によって劇を行う学年、音楽の発表を行う学年と決まっておりました。学芸会前になると教科の学習に優先して、劇の練習や音楽の練習をしたものですが、現在のカリキュラム編成では考えられません。しかし、今でも覚えているのが一年生の時の劇「オオカミと七匹の子ヤギ」です。ご存じの通りこのお話のエンディングは、オオカミに食べられてしまった子ヤギが、オオカミの昼寝の間にオオカミのおなかから助け出されます。そして、子ヤギの代わりにオオカミのおなかには石が詰められる…というものです。オオカミ役だった私は、エンディングでみんなが歌を歌うのを舞台の袖で観ていたことを覚えています。取り組み方や発表の仕方がかわっても、時代を超えて「多くの人に観ていただく」という経験は、子どもたちに緊張感のある場を与えると同時に記憶にも残ります。大きな自信にもつながります。どうか本日の子どもたちの発表に対し、大きな拍手をいただければ、満足感や達成感とあわせて前向きに取り組んでいこうとする意欲にもつながりますのでよろしくお願い致します。

最後になりますが、発表会実施にあたり5年生の田植踊りのご指導をいただきました「本揃田植え踊り保存会」の皆様、着付け等のお世話をいただきました保護者をはじめとするボランティアの皆様、入れ替え制に伴う感染防止対策のため消毒作業にご尽力いただきました「学校支援ボランティア」の皆様、本当にありがとうございます。多くの皆様に支えていただきながらの発表会であることに改めて感謝申し上げます、校長あいさつと致します。

令和4年11月12日

大玉村立玉井小学校長 佐藤 則之